

研究通信

No.2

東京都立墨田特別支援学校

令和6年8月31日

夏季休業中に、本校の外部専門員による教職員向け研修会を行いました。

言語聴覚士 小池 真琴先生

「児童・生徒の実態把握 STからの視点

～行動観察とビデオ分析から～

日常生活での寄り添った関わりを言語化し整理する行動観察とビデオ分析について御講義いただきました。発達の視点から日頃の関わりを客観的に捉え、児童・生徒の力を更に伸ばす指導・支援に活かせる内容でした。



臨床発達心理士 松村 裕美先生

「心理アセスメントから考える児童・生徒理解と

社会での活用について」

“適応行動”という視点で、適切に参加できない場合の原因の推測や対応、意欲的に課題に向かう取組など、事例を挙げながら御講義いただきました。学んだことを自立する力につなげるための支援についても伺えました。



臨床発達心理士 大澤 ちひろ先生

「太田 Stage 評価」

～評価方法のガイドラインと発達段階の理解～

太田 Stage 評価は、発達段階をおおまかに知り、子供に合った支援・指導の手だて・関りの糸口を見つけるものであると、事例を挙げて分かりやすく御講義いただきました。実践的に、評価のロールプレイも行いました。



理学療法士 嶺田 和明先生

「座位姿勢について考えよう～身体機能面を中心に～」

良い姿勢とは何か、良い姿勢がとれない原因についてなど御講義いただきました。また、良い姿勢を育てていくためのストレッチや運動、環境調整などの実技もしていただき、自身の身体で体感することができました。



7月31日には、筑波大学 下山直人先生をお招きして全校研修会を行いました。

「学習指導要領を踏まえた授業改善

～各教科等で育成すべき資質・能力（三つの柱）
の育成、学びに向かう力を視点に～

前半は、「いま求められている教育」をキーワードにして、次のようなお話しを頂きました。教師が主体の「何を教えるのか（内容）」から、児童・生徒が主体の「何ができるようになるのか（資質・能力）」への学習指導要領の転換。児童・生徒に本物の力を身に付けるために、「学びに向かう力」を視点とする授業改善の意義。

後半は、前半の内容を踏まえた「学びに向かう力」を育成するための各教科の授業づくりのポイントを、具体的な実践事例を交えて御講演いただきました。表題にもある「学びに向かう力」は、生きる上でエンジンや司令塔の役割を果たすという先生の御言葉を土台としながら、2学期の授業実践と、1月の研究発表会に向けて、各教科で授業研究を進めていきます。

